

E
エッセイ
ssay.国際交流協会の
10年を振り返って

財団法人豊橋市国際交流協会

特別顧問 神野 信郎

財団法人豊橋市国際交流協会は、「市民が主体となって地域の特性を生かし、幅広い国際交流活動を進める母体」として平成元年4月に設立されて以来、今年で20周年を迎えます。私は、平成11年5月に会長に就任させていただき、5期10年の活動を終え、本年3月をもちまして会長の職を辞しました。

この10年を振り返りますと、豊橋市・トリード市姉妹都市提携、愛知大学・トリード大学姉妹校提携、トリード市及び南通市友好親善市民訪問団による訪問、2005年の「愛・地球博」における一市町村一国フレンドシップ事業への参加、「愛・地球博」継承市民団体の設立などの国際交流事業に積極的に取り組んでまいりました。また、日本語スピーチコンテスト、一日ブラジル領事館、日系南米人向け弁護士相談、外国人向け税務相談、豊橋ブラジルデー、インターナショナル・フェスティバルなど、開催年から今日まで継続して行われている事業も多数企画することができました。特に、「愛・地球博」においては、豊橋市のフレンドシップ相手国でありますドイツ、中国、アメリカ、ベネズエラ、リトアニア、ホンジュラスの「ナショナルデー」に公式参加するとともに、豊橋市でのフレンドシップ・コンサートの開催やフレンドシップ・フィルム・フェスティバルへの参加など、多くの国々の人達と深く交流を持つことができ、当協会としても大変有意義な機会でありました。改めまして本事業に携わられた多くの関係者、ボランティアの皆様のご努力とご協力に深く感謝申し上げます。

本協会設立当初、豊橋市と中国・南通市との友好都市提携、豊橋市自然史博物館とアメリカ・コロラドにあるデンバー自然史博物館との交流、愛知大学・豊橋技術科学大学への留学生の急増、三河港への国際船入港数の増加等、海外との接触が増えていた状況でありましたが、私は真の意味での豊橋の国際交流の進展を考える時、市民（地域）の国際化、産業の国際化、文化の国際化の三点が重要と考えておりました。

市民レベル、地域ぐるみの国際化につきましては、外国人や外国人留学生がよりスムーズな生活を送るため、下宿・アパートの確保、海外生活経験のある市民通訳翻訳の活用、ホームステイの受け入れなど各種ボランティアを基盤とした国際化、また、日本語教室の開設、市内表示板の英語対応等、環境基盤の整備を推進してまいりました。

次に、産業の国際化ではフォルクスワーゲングループジャパンをはじめとする海外企業の誘致、ホテルや国際交流会館等の受け皿づくり、技能研修機能の設置、三河港の整備、農業分野における先端技術の導入などを推進してまいりました。

また、文化の国際化としましては、豊橋に連盟本部をもつ世界アマチュアオーケストラ連盟の機能強化、10年にわたる「音の架け橋コンサート」の開催、「愛・地球博」におけるフレンドシップ国との文化交流、毎年の中小高生の交流のほか、市内3大学の学術交流など数え切れない多様な事業を積極的に実施した結果、豊橋市は日本有数の「市民主役の地方国際都市」のモデルになりつつあると自負しております。

豊橋市に在住する外国人市民の数を10年前と比較しますと、12,000人から19,500人へと62%の増加となり、中でもブラジル国籍の方は景気後退の影響によりピーク時より1,000人程度減少したものの7,100人から11,700人と64%増加し、豊橋市の中で市民としての立場を築かれる状況となりました。また、留学生は28ヶ国289人から33ヶ国414人と43%の増加となりました。この結果、市民20人のうち1人は外国人という国際色豊かなまちになり、豊橋市は私自身も驚くほど大きな変貌を遂げております。

今後も多くの市民ボランティア、関係機関の皆様と一体となって、本市地域の国際化と市民レベルでの国際交流事業の推進、そして外国人市民の皆さんとの共生事業がますます盛んとなり、「平和・交流・共生」の都市「豊橋市」として一層発展していくことを切に望んでおります。

- | | |
|-------|--|
| 平成12年 | トリード市での姉妹都市提携調印式出席（5月） |
| 平成14年 | トリード市での国際姉妹都市会議出席（7月） |
| 平成17年 | 愛・地球博ナショナルデー参加
フレンドシップ・コンサート開催 |
| 平成18年 | 豊橋市市制施行100周年記念海外招待者歓迎交流（8月） |
| 平成19年 | 南通市友好都市提携20周年記念訪中（9月）
国際協力市民サロン“Pal”開設（10月）
南通市栄誉証書授賞訪中（12月） |
| 平成21年 | 当協会特別顧問就任（4月） |